平成 21 年 11 月 26 日
筑　波　大　学

筑波大学嘉納治五郎生誕 150 周年記念事業

このたび、筑波大学では、2010 年嘉納治五郎先生の生誕 150 年を記念し、以下のとおり記念事業を実施することとなりましたのでお知らせいたします。

＜趣　旨＞

嘉納治五郎先生は、高等師範学校ならびに東京高等師範学校の校長として、1893 年から 1920 年までの間、３期にわたり 23 年半在職されました。嘉納先生の創設した「柔道」は世界的スポーツになっていることはご承知のとおりですが、先生は「精力善用」「自他共栄」の理念にもとづいて、高等師範学校の改善、中等学校・高等女学校の充実などの教育改革を行い、師範学校不要論に対して修業年限増加の必要性を説き東京文理科大学創設への布石を打つなど本学に係わりのある活動を展開されています。また、100 年以上前に中国から 7000 人以上の留学生を受け入れ有為な人材を育成するなど留学生教育を推進し、国際交流に努め、教育者としても偉大な業績を残されています。

2010 年は嘉納先生の生誕 150 周年に当たります。筑波大学において先生の生誕 150 周年記念事業を行うことは、 国際人であり偉大な教育者であった先生の偉業を称え、今日の時代に適した形で功績や理念を継承するとともに、現在問われている 大学において目指すべき人材やその育成のあり方や、世界における日本の役割を考える指針を筑波大学から発信することにもなります。

後述のように様々な記念事業を計画していますが、中でも文化勲章受賞者である朝倉文夫氏制作の嘉納治五郎先生の肖像彫刻設置は若き学生諸君、 職員、同窓にとっても先哲として畏敬すべき本学の誇りを見える形で学内外に示すことになります。

＜記念事業実行委員会＞

実行委員会	実行委員長　山田信博　学長
実行委員会事務局	阿江通良　体育専門学群長　ほか

＜記念事業＞

1）2009 年

① 嘉納先生の人柄と女子柔道の発展に関する紹介

直弟子・福田敬子氏（96 歳、アメリカ在住）と女子柔道のパイオニア・山口　香氏（本学准教授）との対談内容を筑波大学広報誌 Tsukuba Communications に掲載

② シンポジウム「嘉納治五郎の偉業：柔道の創始・普及と教育改革」の開催

日時：2009 年 12 月 5 日　　場所：筑波大学体育芸術中央棟５C216

シンポジスト：

山口 香　先生（筑波大学）

「アメリカに渡った女子柔道-福田敬子先生の足跡-」

永木耕介　先生（兵庫教育大学）

「ヨーロッパにおける嘉納の柔道普及の足跡」

大谷　奨　先生（筑波大学）

「嘉納治五郎による教育改革」

主催:日本体育学会茨城支部　筑波大学

協力：（財）嘉納治五郎記念国際スポーツ研究交流センター

③ 生誕 150 周年記念「高等師範学校－嘉納治五郎と高師教育―」展の開催

2009 年 12 月、筑波大学体育芸術中央棟　体育ギャラリー

④ 体育・スポーツ分野における業績紹介 DVD 制作

「スポーツを通した人間教育」（仮称）

⑤ 記念事業推進および像設置のための募金活動開始（2009 年 12 月予定）

2）2010 年

① 筑波大学グランドフェスティバル（2010 年 1 月 30 日）にて業績紹介

パネル展示および DVD 映写

② 嘉納治五郎生誕 150 周年記念国際シンポジウムの開催

「嘉納治五郎のレガシー：スポーツ、国際交流、そして教育」（仮題）

日時：2010 年 6 月 12 日　　場所：茗渓会館（予定）

シンポジスト（予定）：

山下泰裕（東海大学、金メダリスト 1984）、藤堂良明（筑波大学）

Andreas　Niehaus（オランダ、ゲント大学）、中国の研究者

平田諭治（筑波大学）

③ 記念出版（筑波大学出版会）

「逆らわずして勝つ―東京高師校長 嘉納治五郎の足跡」（仮題）（2010 年 9 月）

④ 学園祭、ホームカミングデーにて業績紹介（2010 年 10 月）

学園祭：「嘉納治五郎とオリンピック・ムーブメント」（仮題）

ホームカミングデー：パネル展示および DVD 映写

⑤ 像の設置準備および除幕式（2010 年 12 月 10 日）

資　料

嘉納治五郎は、当時の日本の教育に対して多大な改革を試み、その結果として社会に有為な人材を輩出した。嘉納の主な功績は次のものである。

１．柔道の創設および柔道による人間教育の推進

嘉納は伝統的な柔術に合理的考えを取り入れて再編し「柔道」を創設した。そして、「精力善用」、「自他共栄」の理念と共に柔道の普及に努めた。また、事実を観察する科学的態度、正義感、公正さや謙虚さを身につけると共に、柔道の稽古で得たことを社会生活に活かしていくことを目指した。

２．日本の学校教育の充実

軍隊的な学生寮の規則を改めて学生に自由な気風を与え、学校教育に体育や課外活動、大運動会や留学生教育を取り入れるなど、当時における教育改革を実現した。

３．　深い学識を備えた研究と教育の推進

師範学校から東京文理科大学に昇格させる基礎をつくり、研究と教育を通して、深い学識をもった指導者を養成し、教育者のみならず、多くの著名な研究者を輩出する基盤を作った。

４．体育・スポーツの発展に貢献

日本で初めて「体育科」を東京高等師範学校内に設置し（1915）、学校教育における体育の位置づけを確立した。また、校友会を設置して課外活動を奨励し、運動部や文化部の活動に学生たちが積極的に参加することを奨励した。卒業生を通して、この活動は全国に広まり、今日でも日本の学校では、体育の授業と課外活動は盛んに行われている。

さらに大日本体育協会を 1911 年に創設して、すべての国民が水泳や長距離走をはじめとするスポーツを実践できる手立てを整えた。

５．国際オリンピック委員会委員としてオリンピック・ムーブメントを推進

1909 年にアジアで初の国際オリンピック委員会委員になり、アジアや日本のオリンピック・ムーブメントの推進と柔道の国際的な普及に貢献した。最初の代表選手として東京高師地歴科の金栗四三がマラソンに出場し、それ以来、日本人はオリンピックを通して、世界の人々とスポーツや文化の交流を行うことになった。

６．留学生教育の推進

嘉納は、わが国で最初に留学生を中国から受け入れた教育者である。当初は私塾で受け入れたが、東京高等師範学校にも 1899 年以降、留学生を受け入れた。その後、留学生受け入れのための特設予科を設置し、多くの中国人留学生が東京高等師範学校で学び、中国の教育・学術界に巣立っていった。作家になった田漢（1898ー1968）や毛沢東の青年時代の師となった教育者、楊昌済（1871ー1920）も東京高等師範学校出身であった。